

よりよい人間関係を構築できる生徒の育成を目指した指導の在り方

－ SNS利用の在り方における相互尊重の促進を通して－

福島県立安達東高等学校 教諭 長根 奈緒美

## 1 研究趣旨

高等学校学習指導要領(平成30年4月告示)特別活動のホームルーム活動の内容には、「自他の個性の理解と尊重, よりよい人間関係の形成」が示されている。そこでは、様々な集団の中での人間関係をよりよく形成していくことが求められている。しかし、内閣府の調査報告<sup>※1</sup>によると、15～19歳の調査対象者のうち社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった理由として「人付き合いが苦手だから(58.4%)」「友達との関係が悪かったから(26.2%)」等、人間関係を形成することに課題を抱えていることが分かる。また、現状として、スマートフォンを利用している高校生の割合は95.2%、SNSなどのコミュニケーションを目的として利用している割合は93.3%であった。

福島県教育センターの「令和2年度福島県の情報教育の実態等に関する調査」では、「SNSでの言葉によるいじめ等のトラブルがあった」と回答した高等学校が76.7%あり、SNSでのコミュニケーションを起因とするトラブルが課題となっていることが分かる。このような実態から、生徒自身にSNSの利用の仕方を考えさせることで、相手との付き合い方を意識し、人間関係で傷付いたり傷付けたりしないようなコミュニケーションの在り方を考えさせていくことが必要であると考えられる。

本研究では、SNS利用の場において、生徒が「自分も相手も大切にする」表現方法を考えさせることで、よりよい人間関係<sup>※2</sup>を構築できる生徒の育成を目指し、以下の仮説を設定した。

SNS利用の在り方考えるLHRにおいて、以下の手立てを講ずれば、相互理解の深化による相互尊重が促進され、よりよい人間関係を構築できる生徒が育成されるだろう。

【手立て1】相互理解のための経験の振り返りと共有

【手立て2】相互尊重を目指したアサーショントレーニング<sup>※3</sup>

※1 令和元年度子供・若者の意識に関する調査(令和2年7月発行)及び令和2年度青少年のインターネット利用環境実態調査(令和3年3月公表)

※2 本研究におけるよりよい人間関係を、「自分の思いを適切に表現し、相手の伝えたい意図や気持ちを適切に受け止めることができる関係」と捉える。

※3 自分も相手も大切に自己表現を、体験を通して身に付ける手法

## 2 研究の概要

### (1) 【手立て1】相互理解のための経験の振り返りと共有

生徒自身のSNS利用時のよかった経験や困った経験を可視化することで振り返らせ、SNSとの付き合い方を自分事として実感させる。また、同じ言葉や表現であっても、人によっては受け取り方に差異が生じることを共有させ、自分の言葉や表現が相手にどのような影響を与えていたのかを考えさせるを通して、相互理解の必要性に気付くことができるようにする。

### (2) 【手立て2】相互尊重を目指したアサーショントレーニング

日常場面やSNS利用時を想定した場面でのアサーショントレーニングを実施する。SNS利用時を想定したアサーショントレーニングでは情報端末機器を使用することで、言語情報だけで相手に自分の気持ちや考えを伝えなければならない難しさを実感させる。相手を傷付けない表現(発信の技術)を意識するだけでなく、相手の言葉に傷付いてしまいそうな時の対処法(受信の技術)なども考えさせる。「自分も相手も大切に自己表現を体験的に身に付けていくことで、相互尊重の態度を促進させる。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 【手立て1】において、生徒が互いの考え方や言葉の捉え方の違いを理解し、相手に伝えることの難しさを再確認したことで、相互理解の必要性を実感する生徒の姿が見られた。
- 【手立て2】において、自分も相手も大切に自己表現の必要性を実感したことで、相手の気持ちを考え、より伝わる言葉や表現を使おうとし、自分も相手も尊重した自己表現を意識する生徒の姿につながった。

### (2) 今後の課題

- 自他の差異への理解の深まりから、「自分が伝えたことが相手に伝わっているか不安である」という思いを実感する生徒が増えた。そのような表現への不安を感じた生徒に対し、相手にどのように関わっていけば、さらによりよい人間関係が築けるかを考えさせていきたい。